

第 33 回 公開教育研究会

2017年11月18日(土)~19日(日)

	9:40	11:30	12:40	14:40	15:00	17:00
1日目 11月18日(土)	授業と検討	昼食	講演	移動	教科別分科会	
2日目 11月19日(日)	授業と検討	昼食	テーマ別分科会	移動	合唱	

教育講演会 高橋源一郎さん (作家・明治学院大学国際学部教授)

自由の森学園中学校・高等学校

〒357-8550 埼玉県飯能市小岩井 613 番地 TEL 042-972-3131 FAX 042-973-7103

「主体的・対話的・協働的」に教師と生徒が学ぶために

2020年に向けて、学習指導要領が大きく変わります。最終段階では、文言そのものは消えたものの、「アクティブラーニング(的視点)」や「コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ」「カリキュラム・マネジメント」など、カタカナ語の氾濫に、現場は戸惑いを隠せません。なるほど「主体的・対話的・協働的学び」は、本学園においても従前から大事にしてきた学習形態ですし、それを謳うことに異論はありません。

一方で、国内外のさまざまな計測可能な「テスト」競争に適応するための学習が多く現場を覆っていることも事実です。そもそも教師自身が「主体的・対話的・協働的」にしごとができているのか。この時代に「何を」「なぜ」「どのように」学ぶべきなのかを探求する「心のゆとり」があるのか。「上からの」かけ声と現場のかい離は甚だしい。

このような状況のなか、現場は何を羅針盤にこの荒波をかいくり、目指すべき方向を見定めて航海を続けていくのか——容易に「解」は見えてきません。

しかし、だからこそ、授業づくり・教育課程づくりの試行錯誤を率直に公開し、旺盛に批評を受け、ともに議論し、学校づくりに還流していく太いながれをつくる作業を地道に続けたいと思います。

今まで何度も本校の公開研究会に足を運んでくださった方も、はじめての方も、ともに「あるべき教育の姿」を語り合う、探求的な場づくりにご参加・ご協力いただければ幸いです。

心より、みなさんのご参加をお待ちしています。

授業と検討

11月18日(土)・19日(日) 9:40～11:30

中学・高校全クラスの授業を公開いたします。授業一覧は当日お配りいたします。

教科別分科会

11月18日(土) 15:00～17:00

日本語科	世界・他者・自分を見つめ直す言葉の教育	助言者 太田 昭臣 (元琉球大学教授)
「言葉による見方・考え方」を追求するという事は、世界と、他者とを見つめ直し、自己の枠組みを解体・再構築することへと発展させて考えねばならない。当日は、具体的な教材もしくはカリキュラムの構想にもとづいて問題提起を試みたい。		

社会科	ガンジーの非暴力運動を考える ～高校2年世界史で非暴力運動をどう位置づけるか	助言者 千葉 保氏(元神奈川県小 学校校長・元國學院大学教員)
自由の森学園の社会科は高校2年の世界の近現代史の教材としてインドを扱っています。取り上げる視点はイギリスの帝国主義政策を説明する一つの例としています。授業ではムガル帝国が衰退したあと、東インド会社によるインド支配がはじまり、1857年シパーヒーの反乱を説明して、イギリス帝国の植民地となるまでの過程を取り上げてきました。ガンジーはその後に登場するので、簡単に紹介することはありましたが、本格的に取り上げることはありませんでした。非暴力を貫き、イギリスからの独立を導いたガンジーの運動は、20世紀の世界の歴史の中でも重要な位置を占めています。アメリカの公民権運動にも影響を与えたと言われています。日本国憲法の「改正」が最近また声高に叫ばれるようになりました。焦点は9条にあります。9条の精神の根底にある非暴力について、私たちは、ガンジーからもっと学ぶことがあるのではないかと今回公開研究会で取り上げることにしました。		

数学科	高校数学における“学び合う授業”とは ～今年度の高校数学の実践から探る～	助言者 伊禮 三之(琉球大学) 佐藤 文広(立教大学)
<p>昨年度の「クラス全体を授業に巻き込むには」という分科会の続編である。今年度は高校数学の授業にスポットを当てる。中学1年生とは違い、小学校・中学校の9年間の算数・数学の経験を持つ高校1年生は、入学した時点で数学あるいは数学の授業に対して、生徒間で意識に大きな差がある。その前提に加え、高校3年間を過ごしていく中で個人あるいはクラスの複雑な状況が影響するため、“学び合い”を意識した授業のつくりにくさを感じている。高校数学で生徒が“学び合う授業”の可能性を、実践を元に探っていききたい。</p>		

理科	「学んだその向こうの世界への継続した興味が新たに生まれるような理科の授業づくり Part.2」	助言者 岩田好宏「子どもと自然科学顧問」「総合人間学会理事」「元自由の森学園非常勤講師」
<p>生徒たちに継続した興味が新たに生まれるような授業を作る上で、私たちが生徒たちに対して行っているアプローチによって、どのような興味関心を生み出す事ができるのか、生徒アンケートをもとに意見交換をする場を作りたいと考えます。</p>		

英語科	メッセージを通して世界で起きた事実を知る ～中学校3年生の時期にふさわしい教材を考える～	助言者 梅本 裕(京都橋大学) 根岸 恒雄 (群馬県立女子大他・非常勤講師)
<p>英語科ではここ数年3～4人のグループによる協同学習を取り入れている。数年の実践を通して、協同学習の中での適切な教材選定が大きな課題となっている。中学校3年生は、公民権運動に尽力したキング牧師、環境保護活動家のカルロス・ソリージャ、女性や子どもの教育を訴えるマララ・ユスフザイの3人の言葉に焦点を当てた教材を使って授業づくりをしている。その授業実践報告を軸に、中学校3年生にふさわしい教材について議論したい。</p>		

保健体育科	中学授業実践の可能性を探る ～カバディの教材化に向けて～	助言者 久保 建(日本体育大学) 松田 恵美子 (身体感覚教育研究者) 鈴木直樹(東京学芸大学)
<p>体育では“自分のからだ対話”し、育むことを大切に授業をすすめている。その上で、次の課題となる他者との関係の中での動きづくりとして、カバディ競技の特徴の中に、新たなアプローチの可能性があるのでないかと考えている。“カバディ”の体育授業の教材化の可能性について探っていきます。</p>		

美術科	中学生の成長と美術 ～中学3年染織の授業を中心に～	助言者 鈴木弘子(染織家) 加藤克弘 (大阪美術教育協議会)
<p>中学卒業を機に大きく伸びようとする意識が高まる中学3年生は、考える力と共に作る力も発達し、この時期ならではの作品を生み出す。中3染織の制作や作品を紹介しながら、中学美術の授業がもたらす成長と発達について考えたい。</p>		

音楽科	自分の声と向き合ってみよう	助言者 柴山昌宣(声楽家) 柴山晴美(声楽家)
<p>「うまく声が出ない、音がうまく取れない、周りの音につられる」合唱の授業の中で永遠に出てくる問題です。上記の問題を少しでも取り除くために発声面、教材論など実践や意見を交えながら進めていきたいと思います。</p>		

教育講演会

11月18日(土)

12:40~14:40

高橋源一郎さん
(作家・明治学院大学国際学部教授)



テーマ
「学んじやいなよ」

テーマ別分科会

11月19日(日)

12:40~14:40

教科実践以外の様々なテーマをとり上げ、分科会を行います。また、生徒主催の分科会も行われます。10月以降、ホームページでお知らせいたします。

◇2017年11月18日(土)~19日(日) 9:40~

◇参加費

一般 1,000円 大学生 500円 高校生・小学生・中学生は無料
受験希望の小・中学生同伴の保護者は無料

お申込みは、ホームページからお願いいたします。

お申込み用紙が必要な方は、お送りいたします。

申込み締切りは、11月10日(金)必着。受付後「参加証」を送付いたします。

当日、参加証を提示の上、受付にて参加費をお支払いください。

◇来場用 スクールバス

両日ともに下記の通り、スクールバスを運行いたします。ぜひご利用ください。

	飯能駅南口発	東飯能駅西口発	高麗川駅発
9時	05 20	15	05
12時	00		

◇WEB 詳細など学園WEBでご覧いただけます。 www.jiyunomori.ac.jp